

超高齢口腔扁平上皮癌患者に対して 根治的治療を施行した1例

川原一郎 浜田智弘 金 秀樹 佐々木健聡
高田 訓 大野 敬 川合宏仁 山崎信也

A Case of Radical Treatment for Oral Squamous Cell Carcinoma in an Oldest Old Patient

Ichiro KAWAHARA, Tomohiro HAMADA, Hideki KON, Taketoshi SASAKI
Satoshi TAKADA, Takashi OHNO, Hiroyoshi KAWAII and Shinya YAMAZAKI

We report a case of radical treatment for oral squamous cell carcinoma in an oldest old patient.

An 89-year-old woman was referred to our hospital because of a mass at the left lateral part of the tongue. The diagnostic biopsy proved squamous cell carcinoma. At the strong request of the patient and her family, we performed neck dissection and partial excision of tongue under general anesthesia. The patient's postoperative course has been good without serious complications. There has been no evidence of recurrence and metastasis.

Key words : squamous cell carcinoma, oldest old, radical treatment, neck dissection

緒 言

平均寿命の延長により高齢化社会を迎え、85歳以上の超高齢者が増加している。それに伴い超高齢口腔扁平上皮癌患者数も増加しており、根治的治療を施行する機会が増えている。しかし、超高齢者はさまざまな全身的な合併症を有することが多く、癌治療に対してさまざまな影響を及ぼす。

今回われわれは、超高齢舌癌患者に対して外科療法による根治的治療を施行し経過良好であった症例を経験したので報告する。

症 例

患者：89歳，女性

初 診：2010年3月

主 訴：左側舌縁部の腫瘤

家族歴：特記事項なし

既往歴：高血圧症，連合弁膜症，骨粗鬆症

現病歴：2009年5月頃，家族より左側舌縁部の腫瘤を指摘され，6月某総合病院歯科を受診し，同部生検施行され上皮過形成の診断を得た。その後通院中断となったが，2010年2月，デイサービスのヘルパーが同部腫瘤の増大に気付き，3月再度某総合病院歯科を受診し，精査加療目的に紹介され当科を受診した。

現 症：

全身所見；身長136cm，体重45kg，体温35.4℃，
血圧137/62mmHg，脈拍71回/min. 独歩はかる

受付：平成22年10月27日，受理：平成23年2月1日
奥羽大学歯学部口腔外科学講座

Department of Oral Surgery, Ohu University School
of Dentistry



写真1 初診時口腔内写真
左側舌縁部に外向性の腫瘤を認める。

うじて可能であったが、車椅子を使用していた。舌腫瘤のために摂食困難であったこともあり栄養状態はやや不良であった。

口腔外所見；顔貌は左右対称。触診にて左側頸部に無痛性で可動性のあるリンパ節を1個触知した。

口腔内所見；左側舌縁部に55mm×27mmの外向性で弾性硬の腫瘤を認めた(写真1)。

画像所見；パノラマX線写真では明らかな骨破壊像は認められなかった(写真2)。MRI所見では左側舌縁部に造影された充実性の組織を認め、T1強調画像で低信号、T2強調画像で高信号を示した。また、上内深頸リンパ節に腫大した複数のリンパ節を認めた(写真3)。PET所見では左側舌縁部にSUVmax29.4、上内深頸リンパ節にSUVmax6.9のFDGの集積を認めた(写真4)。

臨床診断：左側舌縁部悪性腫瘍，左側頸部リンパ節転移(T3N2bM0, Stage IV A)。

処置および経過：舌腫瘤周囲より生検を施行し扁平上皮癌の病理組織学的診断を得て、本人および家族に対して告知を行った。治療については、本人および家族より根治的治療の強い希望があり、また、全身状態から判断して手術可能であったこともあり、手術による根治的治療を施行することにした。しかし、手術の際の問題点としては、①高齢である、②弁膜症の既往がある、③塞栓症(肺塞栓症や脳梗塞)を発症する可能性があった。本

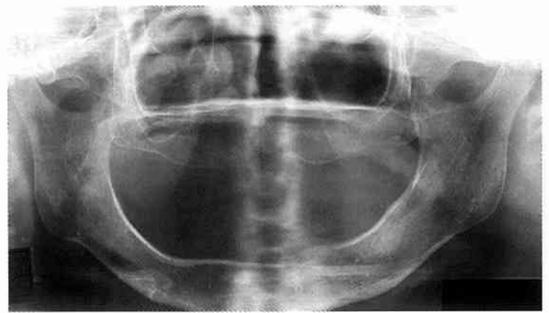


写真2 初診時パノラマX線写真
明らかな骨破壊像は認めない。

人および家族に対して術中および術後に重篤な合併症が起こる可能性を説明し、手術施行に対して同意が得られたことより、初診から1か月後の4月全身麻酔下に左側全頸部郭清術、舌部分切除術を施行した。手術時間は2時間52分、麻酔時間は4時間10分、出血量は44mlであった。舌は腫瘍より1cmの安全域を設定して切除した。また、頸部郭清は総頸動脈、迷走神経、横隔神経、内頸動脈を保存して、左側頸下部および頸部に持続吸引管を留置した。舌原発巣と頸部郭清組織は別々に切除した。術中および術後に重篤な合併症はなく、経過良好につき術後22日目に退院となった。現在、術後約1年経過するが再発および転移もなく経過良好である。

考 察

平均寿命の延長により、われわれ歯科口腔外科医にとっても超高齢者の口腔癌に遭遇する機会が増えている。以前では超高齢口腔癌患者に対して放射線療法や化学療法を主体とした保存的治療や姑息的治療が選択される傾向であったが、近年では外科療法を主体とした根治的治療が選択される場合も増えてきた¹⁻⁴⁾。しかし、超高齢者はさまざまな全身的な合併症を有している場合が多く、さらに、腫瘍の進展度を示すStage分類では進行癌の割合が高いことや^{1,2,5,6)}、認知症などにより患者自身の治療意思確認が困難である場合³⁾、根治的治療に対して家族の同意が得られない場合^{1,3)}があることなどにより、治療法の選択に苦慮することも少なくない。

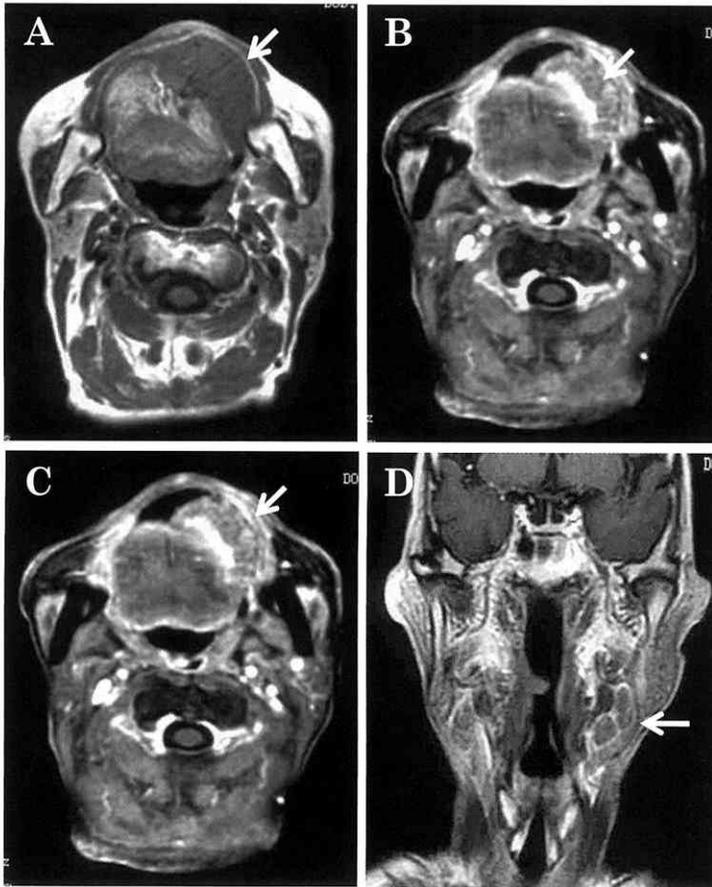


写真3 MR像

A: T1強調像, 水平断

B: T2強調像, 水平断

C: ガドリウム造影T1強調像, 水平断

D: T1強調像, 冠状断

左側舌に造影された充実性の組織を認め、T1強調像で低信号、T2強調像で高信号を示す。上内深頸リンパ節には腫大した複数のリンパ節を認める。

当科の超高齢口腔癌患者に対する治療方針としては、原則として本人および家族に告知を行い、全身的な合併症、腫瘍の進展、治療の意思などを考慮して、手術が可能であると判断すれば積極的に外科療法による根治的治療を選択している。本症例は、89歳という超高齢であることや、全身的な合併症として高血圧症、弁膜症、骨粗鬆症を有していること、T3N2bM0、Stage IV Aと進行癌であることより、手術侵襲を考慮すると、術中および術後に重篤な合併症が起こる可能性が考え

られ、放射線療法や化学療法を主体とした保存的治療も検討した。しかし、本人および家族より手術による根治的治療の強い希望があったことや、術前の全身スクリーニング検査で手術可能と判断できたこともあり、全身麻酔下に左側全頸部郭清術、舌部分切除術を施行した。手術は通法通りに施行したが、術中迅速病理検査の中止や、Pull through operation を適応せず舌原発巣と頸部郭清組織を別々に切除することで手術時間の短縮に心掛けた。術中および術後も重篤な合併症はなく、

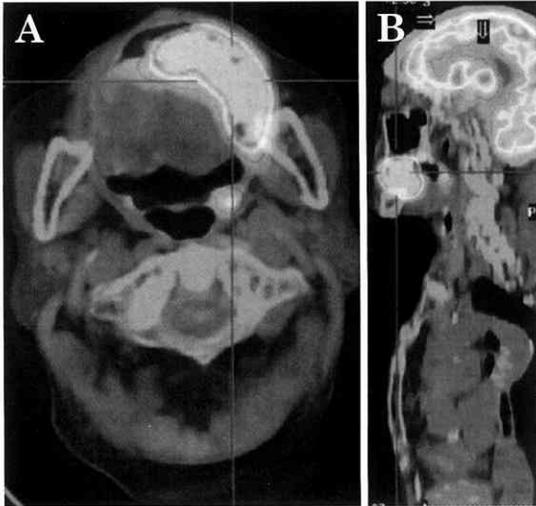


写真4 FDG-PET像

(A:水平断 B:矢状断)

左側舌にSUVmax29.4, 上内深頸リンパ節にSUVmax6.9のFDGの集積を認める。

食事の摂取も可能となり, また現在術後約1年経過するが再発および転移もなく経過良好である。

このように, 患者本人および家族の希望, 全身合併症の有無, 腫瘍の進展範囲, 治療後のQOLなどを考慮したうえで, 超高齢者であっても可能な限り外科療法による根治的治療を目指していくべきと考える。

結 語

今回われわれは, 89歳女性の超高齢者に発生

した左側舌縁部の扁平上皮癌に対して外科療法による根治的治療を施行し経過良好であった症例を経験したので, 若干の文献的知見を加えて報告した。

文 献

- 1) 松村俊男, 松本浩一, 伊藤弘人, 堀 由紀, 野口忠秀, 小佐野仁志, 神部芳則, 草間幹夫: 80歳以上における口腔扁平上皮癌の臨床的検討. 日口誌 16; 72-77 2003.
- 2) 黒川英雄, 武田 忍, 三浦恵子, 中村貴司: 高齢者口腔扁平上皮癌の臨床的検討. 日口誌 13; 346-351 2000.
- 3) 梅田正博, 重田崇至, 高橋英哲, 小國晶子, 片岡智子, 南川 勉, 古森孝英: 85歳以上の高齢口腔癌患者の治療法と予後に関する臨床的検討. 老年歯医 23; 397-403 2009.
- 4) 高田真仁, 芳澤享子, 野村 務, 新垣 晋, 中島民雄: 80歳以上の高齢口腔癌患者14例の臨床的観察. 日口外誌 44; 52-54 1998.
- 5) 中澤光博, 辻野元博, 森山知是, 墨 哲郎, 森悦秀, 網野かよ子, 滝田正亮, 作田正義: 頭頸部扁平上皮癌の臨床的研究—高齢者と若壮年者の比較検討—. 日口外誌 36; 1296-1307 1990.
- 6) 鶴巻 浩, 大橋 靖, 星名秀行, 高木律男, 中野 久: 超高齢頭頸部癌患者の臨床的検討—80歳以上の14症例について—. 口腔腫瘍 6; 11-21 1994.

著者への連絡先: 川原一郎, (〒963-8611)郡山市富田町字三角堂31-1 奥羽大学歯学部口腔外科学講座

Reprint requests: Ichiro KAWAHARA, Department of Oral Surgery, Ohu University School of Dentistry 31-1 Misumido, Tomita, Koriyama, 963-8611, Japan